

平成 27 年 7 月の園だより



水あそびが始まります!

今月より、水あそびが始まります。屋上やテラス、園庭など、安全、衛生に気をつけながら、それぞれの場所で体調や気温に合わせておこなっていきます。園開放のお友だちにも、毎日子どもたちが遊んだ後屋上を開放します。地域の子もたちにも水あそびを楽しんでもらいたいと思っています。



大自然の中でお泊り保育

山県郡北広島町のログハウス“山の家”で年長組さんが、学生ボランティアのお兄さんお姉さんと一緒にお泊り保育を楽しみます。農園に行き、とうもろこしを収穫したり、グループでポイントラリーや、夕食のカレーライス作りなど、貴重な楽しい経験を沢山します。また夜にはキャンプファイヤーをした後、虫の声や葉っぱの揺れる音を聞きながら露天風呂に入ったり、スイカを食べたり、花火をして遊びます。保護者の皆さんから離れ、大自然の中いろいろな世代の人と過ごすことで、協力することの大切さや、自律心を育む機会となればと思っています。



7月7日は七夕です。人日(正月)、上巳(桃の節句)、端午、七夕、重陽(菊の節句)は、昔から五節句といわれ、それぞれにちなんだ伝説や行事があります。七夕は星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛(ひこ星)、織姫(織姫星)と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は懸命に働き、一年に一度7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。

あそびを通して学ぶこと



晴れた日は日差しが強くなってきました。その晴れ間のお陽さまの光をしっかりとらえて、今年はことのほか園庭のキュウリが大きく育っています。

きりん組さんを中心にお相伴にあずかっていますが、どの子もおいしそうに食べてくれていて、不思議なことに野菜が苦手な子も、毎日大きくなっていくきゅうりを見ているせいか、または“お友だちが食べるから一緒に”という気持ちが働くせいか、「おかわりはいらぬから」と言いながらも、口に運んでくれます。

ぐんぐん大きくなるキュウリを見ると、トゲトゲがあり、葉っぱを触ると、小さいひげがモワモワし、口に入れるとポリッと音がして、みずみずしく甘ささえ感じる味。キュウリ一本でこんなにも体感することができるのです。そしてこの体で感じた経験は、保育士が「とげがちくちくするよ」「ポリッとおとがするね」「おくちのなかがあまいね」と話しかけた言葉と一致して、知識として蓄積されます。言葉も知識も学ぶのです。

また室内でも、子どもたちは積み木あそびをよくします。

牛乳パックの手作りの箱積み木、木製の積み木と、年齢で素材や大きさを変えています。こあら組さんは、箱を一つ積んでは、「できた～」と言う感じで手をたたき、2.3個積んで崩れると、“もう一回”と仕草や保育士に視線を合わせ、これを繰り返し楽しめます。こじか組、きりん組さんたちも、積み木を一つずつ積んでいながら、何かに見立てて遊びます。何かを作るという目的をもってとい

うところまではいきませんが、積み木は好きな玩具の一つです。

手先の巧緻性や、創造性なども養われるあそびですが、「子どもは、積み木あそびを通して生きていくことを学んでいるのです。積み木あそびは人生そのもの。」と輸入玩具のお店の仕事をされている方がおっしゃっていました。積み木を一つずつ積みあげていく、途中で崩れる、倒れる、でもまた一ずつ積みなおしていく。この繰り返しが人の生きていく過程と同じなのだそうです。本当にその通り。

子どもたちにはそんな意識はありませんが、知らない間に根気とか、積みあげる時のドキドキ感、どうやったら形になるか、崩れた時の残念な気持ち、でもまた気持ちを立て直して積んでいく、そしてできた時の達成感など、たくさんの学びがあるのです。ちょっと大きな話になってしまいましたが、このように、小さな子どもたちも、保育園での様ざまなあそびや経験のなかで、学びながら大きくなっていくのです。学びというと、小学校のような教科を連想しますが、子どもたちは生活、あそびが学びです。

園は、毎日のあそびの中で子どもたちは何が、どのように育ち、学んでいってくれるのだろうかということをしっかり考えながら、保育をすすめていきたいと思っています。もちろん、楽しいことが一番!

この時期ならではの水あそびなど、今月からしっかり楽しんでいきたいと思えます。夏の日差しにも負けない子どもたちの笑顔が見られることでしょ

みみょう保育園 園長

子育て応援コラム

《子どもの頑張りを認める》

私たちは、子どもによく「がんばれ」と言います。

大人でも、がんばれと言われて「がんばろう!」と思える時もありますが、逆によけいづらくなることもあります。これ以上がんばれないくらいがんばっている時に、「がんばれ」と言われると、今のがんばりを否定されたような気がするからです。

子どもも同じで、子どもなりに保育園などでがまんもし、家でも怒られながらも頑張っているかもしれません。それを「あなたなりにがんばったね」と言ってもらう方がよけいやる気が出るのではないのでしょうか。ですから「がんばれ」と言うよりも「がんばっているね」と言う言葉を使ったらどうかと思っています。

「ほめる」より「認める」。わざわざ褒め言葉よりも、現在やっていることを見つけて「がんばっているね」と認めていく。それによって子どもの自己肯定感が育つのではないかと思います。

また、お金や物を与えるほめ方についてきかれることがあります。本人の頑張りを認めている点ではいい面もありますが、それによって逆に「お金や物をもらわないと動かない子ども」にしてしまう心配があります。

私たちが本当に育てたい子どもは、お金や物をもらわなくても、人の喜びをわが喜びとして生きていく子どもではないのでしょうか。そのためにお金や物は必要ありません。ただ「ありがとう!」「たすかったよ!」と笑顔で伝えるだけで十分ではないかと思います。

真生会富山病院診療内科 明橋大二

保育関係紙

「子どもとの関わり方ワンポイント」より

